

猛暑を乗り越える品種推奨

「強化」「回復」「回避」の対策を

トキタ種苗は、先月13日～14日、大利根研究農場（埼玉眞加須市）において「大利根研究農場オープンデー2025」を開催し、2日間で約3000人が来場した。今回は「灼熱を乗り越える」品種改良のちからをテーマに、耐暑性や安定性に優れた新品種・注目品種を中心に展示。夏の高温環境で栽培を成功させるため、「強化」「回復」「回避」の3つの考え方に沿った対策をいかに提案した。

も冠水したハウスで驚異的な回復を見た。

また、真夏のレタスに替わるサラダ野菜として、ツケナの「灼熱サラダ菜つば」を提案。山東

菜を品種改良したもので、耐暑性・耐湿性に優

れ、酷暑期にも短期間（3週間～1か月）で収穫を繰返せる速さと強さ

を持つ。葉は淡緑色で光沢があり、うちわ状に大きくなり、軸の白さが美しい。株張りが良く、立

性で収穫も容易。

「回復」に優れた品種として、ネギ「冬の雪」を紹介。

安定して夏越しできる秋冬ネギで、同じく夏越し率が高い同社の「大河の轟」と「森の奏」の2つの品種と

言える」と担当者。夏の酷暑や局地的な大雨にさらされても、安定した夏越しが可能。「大河の轟」同様に、葉の数と根量が多く草勢が安定しており、よりコンパクトだが風に強い。「森の奏」で同様に在圃性に優れ、秋により短期間で回復するのも特長。

暑さや台風を「回避」する品種では、ブロッコ

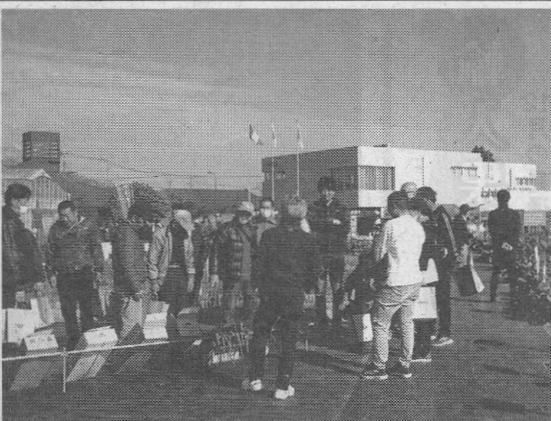
リーの「駿麟」を推奨。定植後約60日で収穫可能な早生品種。乾燥や低温に強く、草勢も強めなのが特長。暑さや台風を避けた遅播き早どりでも、確実な収穫につながる。暖地では9月中旬に定植し12月末に収穫、中間地では9月中旬に定植し12月上旬に収穫が可能となる。

灼熱の猛暑への耐性を「強化」した品種として、展示圃場の入口付近ではコマツナの夏専用品種「真夏の四番打者」を一押し。担当者は「本当に暑い時期向けの品種」

と話す。夏用品種は従来、同社の「夏の甲子園」や他社品種も含め「高温」「多湿」には対処してきたが、「真夏の四番打者」はさらに「乾燥」にも強い品種になる

よう改良を加えた。高温乾燥の条件下で発生する、カッピング、芯焼け、縁焼けなどの生理障害が少ないのが特長で、草姿は極立性で作業性に優れ、株重が乗り収量性が高い。水にも強く、

23年7月に豪雨に襲われた福岡県久留米市の産地では、24時間以上



ネギの展示圃場でブリーダーの説明を熱心に聞く生産者ら(上)、コマツナ「真夏の四番打者」は今年分の種子が完売したほど人気



川越市産 真夏の四番打者

産地では、24時間以上